

三嶋神社本殿建設委員会だより 〈第2号〉

平成22年(2010)6月

発行責任者 建設委員長宇都宮大朗

編集 企画部長宇都宮喜久雄

第2回三嶋神社本殿建設委員会全体会を平成22年5月25日(火) 19:00から三嶋神社拝殿で開催した。全体会開催に先立ち、和気利雄宮司による正式参拝が執り行われ、宇都宮大朗委員長が玉串を捧げ、出席者全員が共に和して参拝を行った。

※ 全体会司会進行を企画部長宇都宮喜久雄が執り行い、

宇都宮大朗委員長が立派な本殿を建てたいとあいさつ。

建設委員会が立ち上がって1年が経過、各集落でもそれぞれに取り組んで貰っていることに感謝する。本殿調査も進んでいることであり、全体会を開催し経過報告と承認を求める案件もあるのでよろしくお願いたい。立派な本殿を建てるべく精一杯の努力をしていきたい旨の挨拶があった。

今までの経過について建築部長が説明。

まず本殿建設に関して、どれだけの費用がかかるのか、早急に本殿の実測調査を行い、大まかでも見積もり金額を出さねば本殿建設は前に進まないとの認識で役員会は一致し、一刻も早く調査を行うことにした。

そのため3月27日に地元の氏子でもある一級建築士の方々の意向を伺い、2者が希望して見積書を提出したので、検討の結果、宇和町で設計事務所デザインシステムを開設されている井関克徳一級建築士(野村町山本在住)に依頼した。時間的な関係もあり、事後承諾になってしまったがお許しをいただき承認願いたいとの提案を行い、了承された。井関克徳一級建築士は指名されてうれしく思っている。やり甲斐のある仕事であり、精一杯頑張って立派な本殿が出来るよう手助けをしていきたいとの力強い発言があり、会場から大きな拍手を受けられた。

本殿実測調査開始、内宮に立ち入る(5月12日)

本殿調査のためには内宮に入らねばならないので、仮宮に移っていただく作業を開始。西森建設に仮宮を設置依頼し、宮司による遷宮式が4月25日深夜挙行された。現在氏神様は中殿の仮宮に安置されており、9月末に調査が終了次第本殿にお帰りにする予定となっている。

本殿の建築年月日は享保15年3月17日(西暦1730年)上棟と判明

調査のため内宮に立ち入る際には、280年間誰も立ち入ることがなかった内宮の扉を開けるのであるから、最小限の人数で神様に失礼の無いよう白装束にマスクを着用し、お祓いを受けて天井裏まで入らせていただいた。松の棟木に力強い筆致と墨痕鮮やかに「貢奉上棟 周知郡野邑三嶋大明神寶造立享保一五年庚戌天三月十七日 願主等々・・・」と書かれていて280年前に建設されたことが今回の調査でようやく判明した。

建設委員会委員の役割分担を決定

21年7月18日に開催した第1回全体会で各部会の設置と任務内容の承認は受けていたが、実質活動していたのは建築部会のみであった。今回の全体会の中で建設に向けて具体的な方向付けをしていかなければならないとの認識の中で各部会構成メンバーを決定した。今後は各部会長の下で動いていただきたい。

建設委員会の構成として

- ② 執行体制については、役員名簿を参照。
- ③ 部会体制について、3部会とし、それぞれに副委員長を割り当てる。
- ☆ 募財部会は、主として特別寄附に関する諸問題を担当することとし、東と西に配置する。
東募財部会長は林友一副委員長、西募財部会長は井関満永副委員長とする。委員は別紙のとおり。
- ☆ 建築部会は本殿建築に関する諸問題を担当することとして、部会長は岡田周三副委員長とする。
委員は別紙のとおり。
- ☆ 企画部会は事務局、広報、落成等総務全般を担当し、部会長は宇都宮喜久雄副委員長とする。
委員は別紙のとおり。
- ※ なお、建設委員長から、建設委員の任期については今までの経緯があり途中交代もやむを得ないができれば完成まで全うして欲しい旨の要望がなされた。

出来る限り地元の力で建設したい。

神社本殿と言う特殊な建物だから地元の技術が通用するのか、宮大工に依頼して建てるのが良いのではないかと色々な意見がある。実際に本殿内部に入ってつぶさに検討された建築士や技術関係者の言では、彫刻や彫り物など特殊な細工物は外注しなければならないが、それ以外は自分たちが持っている技術で対応でき得るとの事で、委員会としては可能な限り地元発注の方向で検討している。氏子総代会もその意向である。

建設は遅くとも平成25年までには建てたい。

平成25年頃を目途に本殿完成を目指している。26年には5年間の積立が完了するのでそれに合わせて落成式を執り行い、すべての作業を終了できるように考えている、との委員長の説明があった。